



幸 動

川西市立東谷中学校

学校便り No. 1 8 (2. 3. 16)

発行者 校長 足立 仁志

卒業証書授与式を行いました

先日（３月１０日）、第７３回卒業証書授与式を行いました。新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、開催が危ぶまれていましたが、何とか無事に終えることができました。しかし、臨時休業中の１．２年生と来賓は参加せず、保護者の方も各家庭１名の参加に制限されたため、少し寂しい形の卒業式になってしまいました。晴れの舞台を迎える３年生のことを思うと、本当に残念で仕方ありませんでした。１．２年生の中にも、お見送りができなかったことを残念に思っている人は多いと思います。

先輩たちがどのような思いを持っていたかはわかりませんが、自分たちの最後を立派な卒業式で締めくくったことを、１．２年生にも知ってほしいと思います。

みんなの思いがひとつになった素晴らしい卒業式でした

例年、卒業式の練習は３～４日かけて行うので、少しずつ全員の動きが揃うようになって本番を迎えます。しかし、今年は、教室で担任の先生から式の流れの説明を聞いた後、体育館で１時間程の練習をしただけだったので、動きが揃わなかったり、間違える動きをしたりするのではないかと考えていました。

ところが、先輩たちは、練習に臨む態度から違っていました。全員が１時間しかないということをよく理解していたように思います。「これ本番？」と思うくらいの緊張感がありました。

当然、当日の先輩たちの態度は、素晴らしいものでした。ステージの上で、一人ずつ担任の先生から名前を呼ばれ、返事をして証書を受け取ります。たくさんの人が見ている前では、なかなか大きな声が出せないものです。例年なら、何度も練習をするので、少しは大きな声が出るようになるのですが、今年はぶっつけ本番です。大きな返事は、期待していませんでした。しかし、人それぞれで大きさに違いはありますが、各自が、今、自分ができる精一杯の返事をしていたように思いました。



それ以外の行動や態度も、何ら例年と変わらないくらい立派なものでした。前に立つ人のことを考えて話が聞けることや、周りの人と気持ちを合わせることが、普段通りにできていました。こんなことを、普段当たり前のこととして行ってきたからこそ、できたのだと思いました。

常に「切り替え」を心がけ、いつでも必要なときに集中できること、「相手を思う」気持ちを大切にし、自分勝手な行動をとらないことなどが、最後の最後で逆境をはねのける大きな力となりました。そんな卒業式に同席できたことに、感謝の気持ちでいっぱいです。ぜひ、先輩たちには、胸を張って旅立ってほしいと思います。心から、「おめでとう！」と言いたいです。

保護者のみな様へ

新型コロナウイルス感染症が拡大していることが、様々なところで大きな影響を及ぼしています。学校においても、休業期間が延長されることになりました。休みが続くことで、お子様への影響を心配しておられる方も多いことと思います。４月に学校が再開したときに、生徒たちが大きな混乱なく学校生活を再開できるよう出来る限りの準備をしておきたいと考えています。

今後の学校教育活動について、現時点で考えられることについてお知らせいたします。しかし、全て状況が変わると変更する可能性があることは、ご理解ください。

・各教科の未履修内容について

３月２５日（水）にお知らせする予定です。４月に教科の授業を再開するにあたり、事前に学習しておく必要があると思われる教科（内容）については、宿題を配布しています。

・部活動について

３月２５日（水）まで、活動を行いません。春休み中は、校内の活動のみ行いますが、対外試合等、校外での活動は自粛することとなっています。

・修学旅行について

予定では、５月２８日（木）～３０（土）に、長崎方面で実施することにしていましたが、現在のところ、延期する方向で検討しています。他の行事との関係で、最も可能性が高い時季は、８月下旬～９月上旬です。いずれにしても、新幹線等の予約の関係で３月中には結論を出さなければなりません。

・トライやる・ウィークについて

兵庫県の事業のため、学校で判断することはできません。教育委員会の判断を待つて決定します。